

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

G・アダムスキー著「生命の科学」を学んでいる人々は、実践が大切であると認識しています。その実践とは、実際にどのようなことなのでしょう？

「生命の科学」では、人間の心（エゴ）と宇宙の意識（意識）との関係について、基本的な対応関係から人体の細胞レベルまで、様々な角度から書かれていますが、日常生活における個別具体的な対応についてはほとんど書かれていません。しかし、実践ということになれば、日々の生活において活かしているか否かを問っているわけです。

本書に対する理解力の差により実践も異なりますが、ここでは簡単な例により説明します。

書物の中では、心と意識の関係について、心は、自分勝手な判断をやめて、意識を信じ指針とすることを諭しています。これを日常で応用するとすれば、自分にとって“損”か“得”という視点で判断しないで、自分や周囲に対して本当に良いのはどちらかという視点で判断することが求められます。ここでのポイントは、自分の利得優位から、客観的な視点での利他を含んだ視点が求められるということです。意識とはそういう道の上にあるもので、実際には、様々なことがある分けですが、その総てにこのように対応することが必要となります。

また、本書では、人間の持つ四つの感覚器官（視覚、嗅覚、味覚、聴覚）が、心を形成していくと説明し、それぞれに勝手な判断をするのではなく、感覚器官同士が対立する事例により、互いの器官を尊重して総合的に判断することを説いています。これを日常で活かすとなれば、他者を尊重して生きることに対応し、AかBかと偏るのではなく、多くの事例を総合的に判断していくことにつながるでしょう。目指す方向が人類の平和であれば、誰もがそれに向けて生きる中で、個性の強い人や強硬な人も、寛容に受け止めることが実践につながるものと思います。

本書により、急に透視能力や他人の心が分かるということはないのですが、深く読み込み、実践として日々幅広く因果を見つめていくと、徐々に“心”なのか“意識”なのかの区別が出来るようになり、宇宙の意識を指針とする生き方になっていくのだと思います。

“言葉に注目”

< 別な惑星の人々は地球人が知っているような愛を指示しない >

by G・アダムスキー著『UFOの真相』（中央アート出版社）

この言葉の前には、「地球人は愛とは何かを分かっていない」、「今日地球で用いられている“愛”という言葉は大変謎めいている・・・愛は、あらゆる罪を覆い隠している・・・」と語っています。そして、表題の次に、「彼らは真の慈悲を指示する。」と言っています。

これらのことから、キリスト教圏の人々にとって“愛”とは最も重要なもので、愛のある生活に憧れ目指しているものの、地球人の知っている愛とは、慈悲（楽を与え苦を取り除く、見返りを求めない支援）を伴わないので真の愛ではないということです。

地球人の愛、特に男女においては、所有欲となり相手を拘束するものとなっています。それも愛の一部ではありますが、真の愛ではなく極めて狭義の偏向を伴うものだという事です。

「生命の科学」学習のポイントPart66

レクチャー6 『新鮮な想念で人体は若返る』の10回目、「決心を強めること」です。

前回、「あらゆる生命体や、個体を作りあげているあらゆる細胞の中に現れている“神”を見るように自分の心を仕向けなさい。」と書いています。今回は、それを受けて、「あなたが他人からどんなふうに扱われたいか・・・同じ感情をあらゆる生命体に返せばよいのです。」と書いています。しかし、簡単ではないので、マスターする“決心を強めよ”ということです。

そして、「才能というものはそれを応用しなければ何の価値もありません。」と言って、誰でもその能力を内在していることを伝え、「・・・実を結ばないかぎり何の役にも立ちません。」と書いて、その能力を再建することを強く促しています。そうすれば、これまで意識的に気づいてきた物事を実行できることがわかると書いています。

「これはわれわれが知っている物事を実行することによってのみなされる」と加えています。この一連の文章は、やや分かりにくいのですが、特別なことを言っているのではなく、損や得を気にせず行う善意とか、他人にして欲しいことを自分から行うなどの行動を言っているようです。端的に言えば、自己の良心（意識）に生きるということだと思われれます。

「他人にたいして正直で誠実であり得る前に、自己の“よき自我”にたいして正直で誠実であらねばなりません。」と書いているからです。しかし、これは容易なことではないので、「不動の信念と忍耐力とを持って耐える必要があります。」というわけです。どんなに大変でも、耐えてやり抜く意義があり、そうすることで岩盤の上に基礎を築くことができると促しています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編66>

“風が吹けば桶屋（おけや）が儲（もう）かる”

あることが原因となって、意外なところに影響が出てくるという例えです。一方では、あてにならないことを期待する例えともなっています。風が吹いてほこりが立ち上る所から、桶屋が繁盛する所まで因果がつながる話で、人間社会において現実にもあるのではと思います。



Q：世の中何でも“有”なのか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：時々このような話になることがあります。何でも可能性があるということで、このように言うのだと思われれます。しかし、宇宙には秩序があり、宇宙の意識には指向性（これあれかしと願う方向性）があるのです。つまり、何でも有ではないということです。人間は、意識の意向を感じながら、その方向に向かって生きて行かなければならないのです。

書物紹介

『21世紀の戦争と平和』 孫崎 享（うける） 著 徳間書店

著者は、外務省にて各国の大使館や国際情報局長を経て防衛大学の教授を歴任、退官後は作家活動を行っています。第二次大戦以降アメリカは、日本社会の中核から①軍事強化を説く②対米独立を説く、人物を今日まで排除して来たという。但し、①については、②を否定しているなら問題ないと解釈できそうです。この他、かなり興味あることが書かれています。

安倍政権下の日本は、戦争のできる体制へ進みつつあり、総理とその取り巻きの状況が、スターリン体制時のソ連と酷似しているとして、警鐘を鳴らすために本書を書いたようです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆ 平成29年11月11日（土）、平成30年1月6日（土）、3月10日（土）、5月12日（土）、7月7日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

早いもので、本年最後の発行になりました。また、66号とは発行11年目のものです。今回も、余裕をもって編集できました。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第66号>

発行日 平成29年11月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

G・アダムスキー著「生命の科学」では、宇宙に人間が生存する理由をはじめ、宇宙の完成のために必要とされる人間の真の能力を開く方法について書かれています。

しかし人間は、真の自我を伸ばしているとは勘違いしながらエゴでもって生きています。「生命の科学」を学んでいる人であっても、生活においては、エゴと真の自我を混同しエゴにより生きてしまう場合があります。その結果、なかなか自己の役割に気づかず、人間の真の能力も開かれないこととなるようです。

しかし地球は、エゴを完全否定することは難しく、むしろそこから学んでいく惑星でもあります。過失に気づき、改善していくのであれば、それはレッスンとして生きたこととなります。

エゴは心であると表現され、これに対して真の自我は、魂とすることができるでしょう。魂とは、意識側のことであり、宇宙の意識そのものあるいは宇宙の意識の一部ということもできます。

魂は、宇宙の意識という大海から噴水のように飛び出した、水滴一粒、一粒を表していて、総てが兄弟のようでもあり、軌道が異なることから、それぞれ創造された理由がある分けです。

地球上を例にとると、魂に自我があるからと言って、常に同じ職業に付くということはありません。そこは、転世による生きざまが、因果として関係しますので当然に多様なのです。

魂が意識であるなら、意識は全知全能なので、なぜ、体験する必要があるのかという疑問もわきます。意識は、物質界としての宇宙を創造し、そこにルールを作り、それに従って自己の分身を物質的な肉体に託すべく放出しています。魂の物質界での一瞬一瞬は、常に初めての経験であり、それを宇宙の意識とともに楽しんでいるということでしょう。

そして、宇宙の意識のイメージする宇宙の完成形、ユートピアに向けて、人間の魂が調整役となって成熟させていくということのようです。エゴなのか真の自我なのかは、実現しようとする行動が人々の恒久平和につながり、その延長線上に宇宙のユートピアが見えるとすれば、それは、真の自我の発露なのだと思えます。

“言葉に注目”

< 実際には惑星の小部分だけが直接の影響を受けるでしょう >

by G・アダムスキー著『UFOの問答100』（中央アート出版社）

この言葉は、「“地球の傾き”は完全な破壊を意味するか？」という質問に対してアダムスキーが答えたものです。そして、それは地球の巨大な爆発や世界の罪業に対する罰でもないと言って、自然現象として起こる旨を説明しています。

しかし、一部の土地は姿を現す一方、再生のために海に覆われる土地もあると言っています。そして、地球の科学者やブラザーズからの警告が無視されるならば、大きな生命の代償があるとしています。さらに、「生き残るということは、より安全な場所に向かって離れようという警告を重視することにかかっています。」ということなのです。つまり、テレパシーによるか、危機が予測ができれば、小部分とはいえ、それなりの人命が損なわれるということがわかります。

「生命の科学」学習のポイントPart67

今回は、レクチャー7 『宇宙的記憶』の初回です。

初めに、「記憶力こそ生活の続行にたいして基本的なものとなります。」と書いています。しかし、多くの人は前世の記憶を持っていません。その理由は、「心が過去に得た重要な価値ある物事を記憶することを全然学んでいなかったためです。」と書いています。それは、心が変動してやまない束の間の諸現象に頼っていて、ほとんど価値のないものに執着しているからだといいことです。このことから、常に人間は、普遍的な価値を指針とすればよいということなのです。

私たちが記憶と思っていることに対して、それは本当の記憶ではなく日常の決まりきった物事は、習慣となってエゴを支配しているものだと言っています。そして、「宇宙的記憶」を持たないかぎり何にもならないと諭しています。

この説明のために、過去の人生をすべて忘れて新たな人生を始める人の話を出しています。このようなことが時々あるようで、この場合、最初の個性が心にたいして死滅してしまい、しかし、一方で肉体は継続している状態となっています。

つまり、前世の記憶を持たない理由としては、様々な体験をした記憶は心とともに死滅して、転生により継続する真の自我（魂）に記憶されないことから運ばれないということなのです。

これは、“意識的な真の自我”（魂）と“個性すなわちエゴの心”（心）との分離により起こることだとしています。だから、「人間の心がこの意識と混ざり合わぬかぎり、本人は自分の正体を見失うことになる。」ということなのです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編67>

“ 当たるも八卦当たらぬも八卦 ”

占いは、当たることもあれば外れることもある。必ずしも的中しないのが占いというものだから、結果を気にするには及ばないということなのです。予言と言われるもので、このように考えても良いものもありますが、ア氏に関するものは、このように捉えるものではありません。



Q：宇宙は膨張しているの？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：現在の宇宙論では、ビッグバン理論が正論とされ、宇宙は、原子より小さいところから爆発し膨張をし続けているとされています。光の速さで膨張するとすれば、こちらに光が到達しないので宇宙の大きさが分からないということなのです。しかし、一方で、定常宇宙論もあります。個人的には、単に固定しているのではなく、宇宙は回転しているのではないかと思います。

書物紹介

『アメリカ大統領を操る黒幕トランプ失脚の条件』 馬淵 睦夫 著 小学館新書

著者は、前回の孫崎氏と経歴が似ていて、外務省で各国の大使館を経て防衛大学の教授を歴任、退官後は客員教授や作家活動を行っています。本書では、トランプ大統領の自国ファーストは、アメリカだけではなくすべての国が自国ファーストで良いという意味で、自立した国同士で友好関係を結べばよいと言っているようです。この辺を日本のメディアでは取り扱っていないとしています。国際金融資本にアメリカや世界は牛耳られていて、政府の銀行でない中央銀行が通貨発行権を持つ重大性や世界の操り方など裏の動きも学べる貴重な書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 平成30年1月6日（土）、3月10日（土）、5月12日（土）、7月7日（土）、9月8日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

年末は、やることが多く忙しいものですね。しかし、何とか編集も終了し新年号が完成しました。本年もよろしくお祈りします！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第67号>

発行日 平成30年1月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

オーソンが語ったことで決して忘れてはならない言葉がいくつかあります。その一つが、次のものです。「地球の傾きが今でもしだいに起こっているということを知れば、あなたの関心を引き起こすかもしれません。・・・もし地球がその周期を終えようとして完全に傾くならば、今海底にある土地の多くは隆起するでしょう。・・・この地球の傾きこそ私たちが絶えず行っている観測の一つの理由・・・」、「たしかに、激しい傾きは地球上に大変動をもたらすのでしょうか？」とアダムスキーが聞くと、「かならず起こります」と答えています。（第2惑星からの地球訪問者）

アダムスキー肯定者で、この事を忘れていた人もいたでしょうが、気を付けている人も少なくないかも知れません。特に気になるのは、地球の傾きが「地球上に大変動をもたらす」という部分です。このことについては、前号でも説明したとおり、地球の総てとはならないものの広範囲において災害につながると想定されるのです。そして、彼らの宇宙航行にも影響することから、スペースピープルは地球を観測しているというのです。

また、別の機会に、そのような事態がいつ起こるか分かれば、アダムスキーに伝えると語っています。しかし、アダムスキーが生存中に知らされることはなく、今では知らせる相手が居なくなりました。

アダムスキーは、地軸が傾いた場合、より安全な場所へ向かって離れようという警告、つまり意識の声に聴き従えば、助かるのだという趣旨を語っています。確かに、そうでしょう。

私が、こうしてお伝えするのも、再度、以上の事柄を思い起こす必要があると感じているからです。その予兆は、5年ほど前からあり、そのころから私は、時が近づいているとか、災害が多くなるとか、戦乱のうわさを聞くとか、従来とは違う表現で、通信配信の添書を中心に限定的に言ってきました。今の地球の状況からすれば、多くの被害は避けられないでしょう。

そこで、アダムスキーを支持する人々は、今こそ、それらが本当に起こるのか、起こるとすれば何時ごろなのかなど、自分自身で意識的に感じておく必要があるのではないのでしょうか。

「言葉に注目」

< 神々の破滅の日が近づいているからです。 >

by G・アダムスキー著『金星・土星探訪記』（中央アート出版社）

この言葉は、アダムスキーが土星で開催された太陽系会議に出席した際、出席者に与えられたメッセージです。しかし、これは、明らかに地球人代表であるアダムスキーに伝えられたものでしょう。この次の言葉として、いみじくも書いています。「しかしいつかまたこの神々は一つの力となって地上に出現し、多く人は膝づいてそれを拝むかもしれません。」この部分は、過去の地球に対する他の惑星の干渉についての説明と対を成し、今後起こることとして、さりげなく伝えたものだと考えています。

皆さんご理解の通り、ここで言う神々とは、スペースピープルのことであり、彼らが、破滅の日に関前後して、地上に出現すると解釈されるのです。

「生命の科学」学習のポイントPart68

今回は、レクチャー7 『宇宙的記憶』の2回目、「宇宙的記憶を保つ方法」です。

冒頭、「しかし、宇宙の意識に自分を同調させた人は、現在のエゴの心のなかに失われている自身の正体をつきとめることができるのです。」と書いています。そして、アダムスキーは、他人にこれを成功させた多くの体験を持っているとしています。しかし、結果の世界が総てのように生きる地球人は、これを成すのが困難であると解釈されます。

そして、「もし心が意識と混和しなければ、それは(心は)生命の海の中で失われてしまう・・・。」と言うことです。この意味として、イエスが言った「肉体を斬る者を恐れないで、魂を斬る者を恐れよ」を引き合いに出し、心の魂と意識の魂の2つがあることを説明したうえで、心の魂は結果にのみ執着するので記憶は失われ、すなわち斬られてしまうと言っています。

イエスは、自分のセンスマインドを意識に混和させていたので、記憶を保つことができたのだと説明しています。そのために人は、神を信頼するように意識を信用せよと力説しています。そして、意識を信用するには、盲信ともいべき強烈な信念が必要だと説明し、盲信について、ものを見るのは目ではなく「あなたの意識」であるとして、結果物としての肉体の目と意識の連携が重要だと言っています。そしてこれは、自然に連携し行っていることです。既に、心は意識を信頼し連携しているのです。つまり、外界の認識は、意識によってなされているのです。

解釈は難しいのですが、これらのことから、心が意識を意識的に信頼し、それと混和させるならば、意識から洩らされる啓示によって宇宙的記憶を読み取れるようになると言っています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編68>

“義を見て為ざるは勇無きなり”

人として行うべき当然の正義であるとわかっていながら実行しないのは、その人に勇気がないからだという戒めです。当然の正義は、実行すべきということです。なるほど、昔の日本、その点は良い時代でした。今では、そんなことをすると恨みをかう可能性もあります。



Q:「生命の科学」は真実だと証明されるのか? ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A:結論から言うと、証明されるでしょう! それは、科学の発達が発見し隠しておきたかった近隣惑星の真実を結果として証明することにもなるでしょう。生命の科学では、弛緩の時人間は、最も脳細胞が活性化すると、閃きは考えをやめた時に起こるとしています。現在、NHKスペシャル「人体」では、科学により脳が弛緩の時に閃きが起こることを証明しています。

書物紹介

『私の宗教』ヘレン・ケラー 著 未来社

著者については、知っている人も多いことでしょう。1880年、アメリカ合衆国アラバマ州タスカンビアに生まれ、2才の時の発熱がもとで視力と聴力を失い、7歳の時に家庭教師のサリヴァン先生の下で、言語を覚え驚異的に才知をのびし大学卒業後、文筆活動をした人です。

彼女が、最大限尊敬を示しているのが、天使と会話ができるというエマニエル・スウェーデンボルグです。本書は、彼女の想いを伝えたもので、視聴覚を失っているがゆえに理解できる真理が、スウェーデンボルグを真実の人であると伝えていきます。なるほどと思える書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように!

☆ 東京開催 ☆ 平成30年3月10日(土)、5月12日(土)、7月7日(土)、9月8日(土)、11月17日(土)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

多忙ながらも、やや余裕をもって編集しました。出来具合はいずれにせよ、地球上では、何事も先手、先手で行う必要があるようです。

URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第68号>

発行日 平成30年3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

アダムスキー著「生命の科学」を学んでいると、欲望というのは総て悪いことだと考えてしまいます。それは、心(エゴ)に基づくと判断されるからです。

「生命の科学」で伝えられたエッセンスの一つは、肉体に閉じ込められた先祖代々からの習慣をはじめ、肉体を存続させるための欲求や快樂を得るための欲望の実現といった、エゴ中心の生き方から自分を解放し、意識の声を聴くことができるようにすることにあります。

しかし欲望等は、すべてエゴ(心)から出ていると考えなくてよいと思われまゝ。エゴは自己優位の考え方で単純な損や得を基準に行動しようとしませんが、必ずしもそのような欲求を伴うことなく行動する場合もあるでしょう。

宇宙は、何でも有ではなく、宇宙の意識の想い、指向性があると考えないと人々が求めるユートピアさえ、一つの考え方でしか無くなってしまおうでしょう。現肉体を持つ人間を前提に何が幸せか、何がユートピアかを純粋に思考するなら、一定の解を導き出し、それは宇宙の基本的な方向性と近いはずで。

なぜなら、私たちの住む宇宙は、意識というすべての共通の源から生み出されていて、その基本的な構成要素として原子あるいは素粒子を活用することを決め、それらの組み合わせによって万物を創造するとした時点から、そこから生み出された人間にとって何が好ましいのか、ユートピアとはどのような世界なのかは必然的に導き出されると思われまゝ。

とするなら、宇宙の完成へ向けてのベクトルは存在し、そこで育まれているすべての生きものは、当然に生命にとって何が好ましく、何が好ましくないのか、そのことを理解できるはずだと考えられます。宇宙が存続し続けるための好ましい方向性、それは、宇宙の意識の欲求、つまり、意識に根差した欲望と解釈されるのです。

このようなことから、私たちアダムスキーを支持する人々は、宇宙の意識の意志、方向性を感じることで、宇宙の意識の欲望を理解することであり、その実現を目指すべきだと考えます。

“言葉に注目”

< これまで書かれてきたような予言が何らかの形で実現するだろう >

by G・アダムスキー著『UFOの真相』 (中央アート出版社)

これは、『教会の果たすべき義務』と題する項目に収められているものです。上文に続いて、「すなわち天国がこの地球に確立されるか、それとも地球人類の完全な絶滅が必然的な結果になるかだ。その選択は地球住民である人間自身にかかっているが、最大の責任は世界中の精神指導者の肩にかかっているのである。」と書いています。

アダムスキーは、スペースピープルの存在を公表していくのは、宇宙の“多くの館”を知っている複数の大規模な宗教ではないかと言っています。それが役割を果たすなら、天国がこの地球上に確立されるけれども、そうでないなら絶滅が必然的に起こるとしています。なるほど、私は、後者の世界に近づいていると見ています。決して、軽視できない言葉です。

「生命の科学」学習のポイントPart69

今回は、レクチャー7 『宇宙的記憶』の3回目、「意識による知覚力を拡張せよ」です。

最初に、「生命の宇宙的な概念を得るためには、自己内部の意識による知覚力の拡張が必要であって、これに尽きます。」と書いています。この意味ですが、“生命の宇宙的な概念”というのは、生命とは何かを理解するには宇宙的、つまり宇宙創造に関連する本質的な意味合いを理解する必要があり、そのためには、自己の内部で感じることができる意識の知覚力を高めることに尽きると言っています。意識による知覚力の拡張については、次のように説明します。

「それは飛行機のなかにいるかまたは高いビルの屋上にいるのと比較できます。」と。これは、自分の頭上にある物と同様に眼下にある物を知覚するようになるからということです。このポイントは、同じ心を用いて頭上と眼下の両方に気づくことになる点です。通常の心は、目の前にある物に気づくという水平的な視点が中心ですが、これを眼下と頭上という広がりを持った二つの面において警戒的なるからです。

これができるようになれば、「意識の記憶に関連してあなたは制限なくどこまでも探ることができます。」と書いています。わずかこれだけの説明ですが、アダムスキーは、「こうして自分の真自我を見出して永遠の海のなかに生きることが可能になる・・・。」としています。

このことを、“生命の特殊な面”と言っていて、是非とも学ばねばならない主要な部分であるということです。これは、心と意識が一体となって生きることであるとも言っています。心が意識を信頼して共に生きることは、知覚力の拡張につながるだけではなく、そもそも本来の生き方であるということを行っているようです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編69>

“賢人は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ”

この格言を知ったとき、正に、その通りだと思いましたし、大半の地球人の生き方は愚者なのだとも思いました。賢い人間は、歴史や他人の経験などから、まずいと思うことを回避しますが、そうでない人は、聞いていたことでも経験しないと理解しないということです。



Q：この太陽系人は他の太陽系へ移動した？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：どうもそのようです。アダムスキーが生存中に、この太陽系は古びているので、彼らはそれに代わる新しい太陽系を発見し、移動する話を後世の人々に書物を通じて伝えていました。地球上で行われた核爆発実験により地球はバランスを欠き、放射能は宇宙へ拡散しています。これらの理由から、予定よりやや早く彼らは一部の人々を残し、この地球を去ったようです。

書物紹介

『ニュースのなぜ？は 世界史に学べ』 茂木 誠 著 SBクリエイティブ(株)

著者は、駿台予備学校世界史科講師です。新聞やテレビなどで伝えられている政治や経済、あるいは軍事などのニュースは、改めて解説をされないと良く分からないことが多いものです。本書は、それを世界史の観点から基本的なことを中心に分かりやすく解説しているものです。

解説事例は、意外と学ぶ機会がなかった事柄が多く、歴史的な事実の背後を含め“なるほど・・・”と思うところもあり、当然ながら歴史を知って世界を見ないといけないと思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆ 5月12日(土)、7月7日(土)、9月8日(土)、11月17日(土)、平成31年1月12日(土)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

今回も、やや余裕をもって編集できました。これらは、計画的に進めることができているからです。これらは、地球的に力になる手法です。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第69号>

発行日 平成30年5月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊 克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

地球人が、最も深く考えなくてはならないことは、“なぜ、地球は平和にならないのか？”という問いについての正しい解だと思います。

有史以来人類は、少数でのいざこざから、集団での戦い、更に大きな集団を形成しての戦争を繰り返し、近代となってからも第1次世界大戦や第2次世界大戦などが発生し、今日に至るも、世界のあちこちに火種があり武力衝突が起っています。

知的であるはずの人類が、なぜ、その解を求めないのか不思議でなりません。

それぞれに史実等を探求すれば、その原因の多くは経済問題や領土問題、あるいは宗教であり、その思考や行動が、人間集団の浅ましさを身勝手に行きつくに違いありません。

なぜ、そうになってしまうのか？ その解を私たちは持っています。

それは、“宇宙の意識”と言う全宇宙に共通する絶対的な指針の基に生きていないからです。

地球上では、生きるための真理や指針を教えていると思われる宗教や哲学などがありますが、それらの教えの先に、あるいは根底にあるものが宇宙の意識に辿り着くものであれば真実のものであり、そうでなければ、偽物と言うことができるでしょう。

全宇宙に共通する真理であり英知であり、パワーあるいは生命でもある宇宙の意識は、宇宙に存在する総てのものが従うべき指針であります。この絶対的な真理の存在を、オーソンやアダムスキーが伝えてくれたことに、私たちは感謝しなくてはなりません。

これを指針に生きる、つまり、宇宙の繊細な心に気づけるように生きるならば、本来人間が備えている、あらゆる分野での治癒能力や予知能力が開花し、あるいは画期的な機器の開発などが行われ、その集団も生き生きとなって、平和な社会が自然に存立することになるでしょう。

あまりにも単純であり当然なことですが、私たち人間は、永い間、そこから外れて生きて来ましたので、未だに理解できない状況にあるようです。オーソンが地球人へ求めているのは、そこへ立ち戻ることであり、そうなれば、自然界も人間とともに歩むようになるでしょう。

“言葉に注目”

< 自然界の神聖さを無視して創造主だけを講えています >

by G・アダムスキー著『金星・土星探訪記』（中央アート出版社）

この意味は、創造主は決して分離を望んでいないのに、ほとんどの人々は物事を分割させようとしていて、その結果、創造主の制作物である自然界の神聖さを賛美せず創造主と切り離しているということです。

このことをアダムスキーは、「私はあなたを愛し、讃えますが、あなたの心によって作られた家を讃えることはできません」と言っているようなものだとしています。これを偽善であると言っています。確かに、私たちは、自然界に生息する動植物を自己の利益に反するものとして、排除しようとしています。ほんの一例ではありますが、この本来の対応についても、創造主の創作物として考えれば、新たな対応方針が見つかるのではないかと思います。

「生命の科学」学習のポイントPart70

今回は、レクチャー7 『宇宙的記憶』の4回目、「二人の人間の一体化」です。

この良い例として、生活をともにしようと決めた二人の人間を説明しています。分かりやすいのは夫婦ですが、異なる習慣を持つ二人が相似た人間になり始めると言っています。「これは両者が一体であるかのように相手を知覚しあうようになるからです。」と書いています。

しかもこれは、犬や猫のような動物でも主人の個性をまねるのだということです。以上の点は、経験的に理解できる人も多いのではないのでしょうか。

「そこで結局、絶えず気になるような人または物が身近にあると、それはそのまま相手の自動的な現象となり・・・。」と書いています。そして、「人間は記憶している手本に基づいて行動するからです。」と理由を説明しています。

ここで重要な事として、「その記憶している手本は、それに似せて人間の個性を作り直すということです。」と書いています。「その場合、本人はもう元のままではなく、他人が本人にとってかわったと言えるでしょう。一方が他方を吸収してしまっただけで両者は一体化したのです。」

このように、両者の一体化を説明しています。これらを踏まえ、重要なのは後段です。

「これはまた大勢が同じ手本を応用する場合に一人だけを代表者にする例にもなります。」として、「一個人はエゴのかわりに常に神（意識）というものを考えるならば、いつか神と一体化し、神に似てくることになるのです。」と書いています。

つまり、神と一体化するというのは、遠い話ではなく誰もが出来る方法を活用し、夫婦が似て来るように、模範を意識として意識を真似て行けば良いということなのです。但し、意識を感じる生活を行う必要がありますから、行き過ぎた欲は減じなくてはならないでしょう。

宇宙に“生きる”

<名言格言編70>

“敷居（しきい）が高い”

相手の家の敷居（家屋の入口に敷かれた木の部分）が心理的に高いと感じられ、入りにくくなるところから、顔を合わせにくいとか、行きにくくなる例えです。「生命の科学」学習会は、規律を持ちながらも、敷居が高くならないよう留意したいと思います。



Q：宇宙時代は来るのか？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：この定義によりますが、友好的なスペースイープルが公然と姿を現す時代は来るでしょう。正に、その瀬戸際にいます。しかし、誰とでもコンタクトするかどうかは分かりません。この時、多くの人々は、この太陽系の真実や彼らが地球に関わった歴史を少なからず知るでしょう。

書物紹介

『(日本人) かつてにっぽんじん』 橋 玲 (たちばなあきら) 著 幻冬舎文庫

本書は、大変によく考え整理されている書物で、日本人という括りについて大きく20項目について書かれています。例えば、「日本人」というオリエンタリズム、東洋人の脳・西洋人の脳、「正義」をめぐる哲学など、それぞれに自己の独特の視点により、様々なデータや意見を取り上げながら解説していきます。特に、「価値観マップ」でわかる日本の特殊性など、実際には西洋人以上に個人主義、合理主義的な日本人の思考が示され色々と考えさせられる一冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催 ☆ 7月7日(土)、9月8日(土)、11月17日(土)、平成31年1月12日(土)、3月16日(土)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

今回は、6月の中旬まで大変に忙しかったのですが、地道に進めた結果、遅すぎず早すぎず理想的な完成となりました。とりあえずOK！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第70号>

発行日 平成30年7月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)